

平成 22 年度

棚田学会大会シンポジウム

棚田の圃場整備



日本の棚田百選・富山県氷見市長坂(撮影:今井英輔)

11:00~11:50

第 1 部

13:00~13:40

第 2 部

14:00~17:45

2010 年度棚田学会総会
石井進記念棚田学会賞授賞式典
シンポジウム「棚田の圃場整備」

■報告 1.「棚田の労働生産性」 亀井 雅浩 近畿中国四国農業研究センター

■報告 2.「棚田の圃場整備」 内川 義行 信州大学農学部

■報告 3.「棚田の圃場整備と景観」 重岡 徹 農村工学研究所

コメンテーター 山岡 和純 棚田学会理事/国際農林水産業研究センター
高木 徳郎 早稲田大学教育・総合科学学術院

■パネルディスカッション

コーディネーター…山路 永司 棚田学会理事/東京大学大学院

パネラー……………亀井 雅浩、内川 義行、重岡 徹、山岡 和純、高木 徳郎

2010 年 8 月 1 日(日) 13:00 スタート

会場：三越劇場 (日本橋三越本店 6 階) 資料代:1,000 円(会員は無料)

主催：棚田学会

棚田オーナー制が一部でもはやされている。都市住民が棚田を訪れ、清浄な空気を吸い、蛙の声を聞きながら、泥と遊び、稲を植える。風が心地よい。わずか100平米の田植えは、仲間で行えば1~2時間で終わってしまう。もっとゆっくり遊びたいくらいだ。

しかし棚田を生業とする人々にとってはそうはいかない。棚田までが遠い、水は遠くから持ってこなければいけない、小さな機械しか入らないので手作業が多い。何たって、上り下りがたいへん。この労働はいかばかりだろうか？

なので、圃場整備という声がある。しかし傾斜がきついと、そう簡単ではない。何枚か繋ぐ「せまちなおし」で我慢する場合もある。整備のための費用も平地と比べると、めっちゃ高い。

そして、しかも、整備の方法によっては、生き物が住みにくくなる、景観が損なわれるという声もある。じゃあ、どうすればいいのさ!?

そこで、これらの課題に造詣の深い方々に、ご経験・お考えを話して貰い、皆で勉強し、議論しようではないか。

	<p>亀井 雅浩(かめい まさひろ) (独)農研機構 近畿中国四国農業研究センター 中山間耕畜連携・水田輪作研究チーム チーム長 愛媛県生まれ。九州大学農学部・大学院(修士)修了後、農林水産省九州農試、生研機構、中国農試を経て、2008年近畿中国四国農業研究センターのチーム長、現在に至る。中山間地域における稲麦大豆等の水田輪作、飼料用稲の生産・利用システムの確立研究に従事。専門は農作業技術で、研究員時代に水稻の再生紙マルチ直播技術、畦畔法面の草刈作業技術、牧草・飼料用稲の収穫・調製技術等を開発。</p>
	<p>内川 義行(うちかわ よしゆき) 信州大学農学部 助教 東京都出身。信州大学大学院農学研究科修了後、長野県職員を経て、2000年に信州大学農学部に着任、現在に至る。専門は農村計画学。等高線型工法の充実等、棚田の整備と保全技術開発が研究テーマ。2010年2月に重要文化的景観に選定された長野県姨捨棚田では、圃場整備された棚田を含め文化的価値とし、保全計画を策定した。</p>
	<p>重岡 徹(しげおか てつし) (独)農研機構 農村工学研究所 農村環境部 景域整備研究室 主任研究員 熊本市出身。社会学的観点から農村環境の開発・保全、農村協働力の再生等の農村振興に関する研究に取り組む。平成18年度農林水産省委託調査『地域に根ざした文化的な景観の整備・保全・活用手法検討調査』の一環で棚田景観の動態保全のあり方を検討。著書に『農村ふるさと再生』(共著)日本経済評論社、『持続的農業農村の展望』(共著)大明堂など。</p>
	<p>山岡 和純(やまおか かずみ) (独)国際農林水産業研究センター(JIRCAS) 研究戦略調査室 主任研究員 東京は下町築地の出身。農林水産省で全国の圃場整備事業新規着工地区の計画審査を担当。同課長補佐時代には中山間地域の圃場整備事業に関する政策立案を担当。国の政策に棚田の保全対策を初めて位置付けた。農村工学研究所、東京大学特任教授を経て、現在は国際農林水産業研究センターでアフリカの稲作推進の調査研究に従事。</p>
	<p>高木 徳郎(たかぎ とくろう) 早稲田大学教育・総合科学学術院 准教授 東京都武蔵野市生まれ。早稲田大学第一文学部助手を経て和歌山県立博物館にて高野山鎮守社である天野社や熊野三山に関する文化財の調査・保存・展示に携わった。紀の川流域の荘園・村落の景観・水利調査などを行う。和歌山県紀の川市やかつらぎ町・紀美野町などで棚田の調査を行い、かつらぎ町東洪田にて文献上の初見となる棚田の所在を明らかにした。今年4月より現職。</p>
	<p>山路 永司(やまじ えいじ) 東京大学大学院新領域創世科学研究科教授 専門は、農地工学・農村計画学とこれらをベースにした国際協力学。大学院 修士時代からでっかい水田を研究対象とし、千葉・埼玉・八郎潟・南幌・カリフォルニア・オーストラリア・イタリア等々の広い水田内を這い回る。1999年に鴨川市大山千枚田と遭遇し、棚田に目ざめる。草刈りボランティアを経て晴れてオーナーに昇格。収穫祭の舞台上でアカペラで歌うのも楽しみ。</p>

申し込み用紙

シンポジウムに参加します。口懇親会(会費 5000 円)にも参加します。
 (懇親会参加ご希望の方はレ印を付けて下さい。)

お名前 _____ 所属 _____

E-mail _____

今後棚田学会の催し物の御案内をご希望の方は、E-メールアドレスをご記入下さい。

申し込み先…FAX.042-336-1299 E-mail : tanadagattukai@yahoo.co.jp